

学校選びや子育てのヒントがいっぱい!

人気中学校 校長先生インタビュー

子どもの頃のエピソード、思春期の葛藤、

教師になるまでの道のり……。

学校説明会ではなかなか聞けない話が満載の校長先生インタビュー。

最後に語られるのは、

学校や教育、そして生徒たちへの熱い想いです。



サレジアン国際学園
中学校高等学校

宗像 諭 校長先生

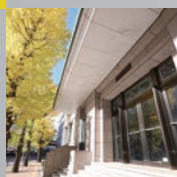
interview
#1



共立女子
中学高等学校

景山 誠 校長先生

interview
#2



絵本好きな幼稚園時代と 外遊びが好きな小学校時代

生まれは、東京都文京区です。家族は両親と妹の4人で、祖父母とも一緒に暮らしていました。当時の文京区は今のようないびるもほとんどなく、落ちついた環境でした。

幼稚園の頃はあまり社交的ではなく、集団生活は苦手でした。外で遊ぶよりも家で絵本を眺めるのが好きな子どもで、図鑑などのシリーズを集めていました。親からは、周囲と馴染まない様子を心配して、「お友だちと遊びなさい」と公園の砂場などに連れて行かれたこともありましたが、それが苦痛だったのを覚えています。

ところが、小学校に入ると今度は逆に野球など友だちと外で遊んでばかりになり、家の中で勉強をしたりゆったり過ごしたりすることが嫌で、学校が

ら帰るとすぐに外に飛び出していくように。おかげで、自然に社会性などが身につきました。

この頃の経験は、現在の私の人間観や教育観のもとになっています。本人が嫌だと思ふことは無理にやらせても身につきません。やりたいことをやらせて、伸ばしていくことが理想なのだと考えています。

周囲との人間関係の築き方は大きく変化しましたが、幼い頃から変わらないうのは「生き物好き」ということ。家で小鳥をずっと飼っていましたし、小学生になってからはイヌも飼うように。家の庭の池に春になるとカエルが卵を生むので、オタマジャクシを捕まえて育てたりもしていました。たくさんの動物がいる上野の動物園や、化石や動物の剥製がある科学博物館に行くのも好きでしたね。

この「生き物好き」は、私の「不思議

共立女子 中学高等学校 かげやま まこと 景山 誠 校長先生

議だな」という思いから始まっています。鼻の長いゾウや首の長いキリンの姿は、人間とはまったく違って、「なぜだろう」と思いながら見ていました。テレビの特撮番組も、登場する怪獣の造形に惹かれて見ていました。不思議な生き物の姿を通して、日常とは異なる世界を感じ、憧れを抱いていたのかもしれない。

大学卒業後に 学びたいことが見つかる

中学校は地元の区立、高校は都立の公立校に進みました。中学ではSF小説に夢中になり、ほかにもファンタジーやホラーなど好きな本を読みふけるなど趣味を中心にして過ごしていました。しかし、当然、高校受験を前に、勉強にも力を入れざるを得ない状況になります。勉強は嫌いではありませんでしたが、私は新しいことを教えられ

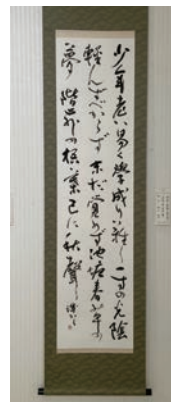
多様な個性と出会える環境で
自分だけのリーダーシップを
生徒たちに見つけてほしい。



就任直後、旧校舎の職員室前で。生徒たちに囲まれて撮影。

album
full of
memories

album
full of
memories



「五十の手習い」で始めた書道。
「少年老い易く……」。

ると、自分で考えてきちんと理解するまでは次に進めない性分で……。けれど、自分の思索に集中している間も学校の授業はどんどん進んでいくためにペースが合わず、もっぱら教科書や参考書を使って独学で学ぶことがほとんどでした。

進路選択については、どの科目も楽しく勉強をしていたことから決められず、テストの点数などから「理系が向いているかもしれない」と文理の選択だけはしました。しかし、そこから先はどの分野もおもしろそうで絞りきれず、大学受験の際の志望先は物理学、電子通信学、生物工学とばらばら。結果、最初の受験では合格できず、1年の浪人生活を経て筑波大学生物学類に進み、微生物生態学を専攻しました。そして、卒業研究などを通して、尊敬する研究者の方々のお話をうかがうことで、初めて「学問」に触れたという

実感が生まれました。

卒業後は、一旦は一般企業に就職し、営業の仕事に就いたのですが、そのうちに「人についてもっと学びたい」という思いが強くなって退職。筑波大学大学院教育研究科に入学しました。どの科目にも興味を持ち、「真に学びたいこと」を決めかねていた私ですが、大学卒業後にやっと見つけることができたわけです（笑）。

その後の進路として、そのまま臨床心理学の方面に進むことを漠然と考えていましたが、所属した研究室が神奈川県公立中学校と共同で授業改善研究を行っており、私も教育現場に深く入り込みながら研究に参加していました。その経験がきっかけで、教員を目指すようになったのです。しかし、大学時代には教職課程を取っていなかったため、1年余分に大学院に残り、修了後、本校の理科教諭に着任しました。

わかりやすい授業から「なぜ」を考える授業へ

教員になったばかりの頃は、いかにわかりやすい授業をし、生徒たちに効率的に学んでもらうかということに重点を置いていました。大学院で学んだ応用行動分析学などをもとに、曖昧さをなくし簡潔に伝え、生徒に行動してもらうことで着着を図り、的確なフィードバックをすることで各自の能力を伸ばしていくという手法です。さまざまなバックグラウンドの子どもがいる

アメリカ等の教育現場で取り入れられているメソッドで、本校でも一定の成果がありました。

ただ、実際の教育現場で生徒たちと接する中で、これで良いのかという疑問を持つようになりました。決定打となったのが、定期試験前に質問に来た生徒の言葉です。質問に応じて答えを教えたあと、「なぜそうなるのか」を解説しようとしたところ「テスト前ですら答えを丸暗記したいので、解説はしないでください」と断られてしまったのです。普段は考えることを厭わない、思慮深く優秀な生徒という印象を持っていただけに驚きました。

それからは、授業でも生徒たちにすぐに答えを教えるのではなく、「答え

に辿りつくためにはどのように考えれば良いのか」を伝える機会を増やしていきました。授業のやり方に正解はありません。しかし、私は、「生徒が自分で考え、決め、行動する」指導に重点を置くように意識して授業に取り組みようになったのです。

社会での新たなリーダーシップを育てる

教務主任、副校長を経て、2025年4月から校長となりました。今、力を入れているのは、「共立リーダーシップ」を軸にした、中高一貫の独自プログラムを構築することです。

「共立リーダーシップ」とは、今までの一人が集団を引っ張るリーダーシップではなく、多様な個性の集団の中で一人ひとりが自分の役割を見つけ、授業や部活、学校行事などの学校生活の中で発揮することを目指して、2022年度から掲げてきたものです。

共立は「東京一出会いの多い女子校」と称しているように、1学年320名、全校生徒1920名という多くの生徒が集う学校です。教員や職員などを含めると、2000名以上の人々との学校生活の中で、生徒たちは他者との関係構築や適切な距離感の調整を自然と身につけていきます。この環境をさらに活かす形で、お互いの個性を活かしたチーム運営をする力や主体的に課題解決に向かう主体性（エージェンシー）を育てていきます。

本校で学んだ生徒たちを「大丈夫」と自信を持って社会に送り出しています。

新たな取り組みではありませんが、実は「将来どのような場所・場面においても、輝き、羽ばたくことができる女性を育てること」という思いは本校の建学時と変わることなく、ただ自立して生きるために必要な知識やスキルが変化しているだけです。「リーダーシップ開発」や「課題解決型授業」など、現在中高一貫のプログラムの骨組みはほぼできつつあり、今後は内容のブラッシュアップを進めていきます。

私が共立の生徒たちに思うことは、自信を持って巣立っていったほしいと

景山先生が教える

子育てのヒント

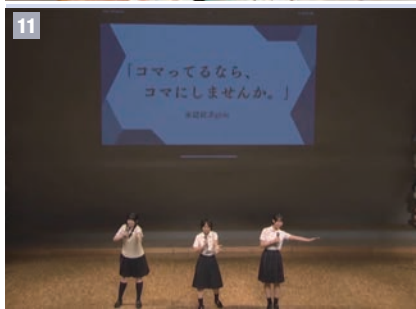
子どもの成長と 伴走する気持ちで 親も進んでいきたい

子どもは親とは別の人間です。幼い頃は何でも子どもとわかり合えていたとしても、成長するに従って親の知らない姿が増えていきます。ショックを受けることもあります。100%子どもを理解することや「親の考える幸せ」を子どもに求めることは諦めて、子どもの成長に伴走する気持ちで向き合ってください。私自身子育ての中で、こうした理想を実践できていたわけではなく、特に受験期にはあれこれ口を出したくなりません。少しずつ子離れをしていってください。



コロナ禍での理科実験の様子。共立の理科は実験を多く取り入れている。

album
full of
memories



共立女子中学高等学校を
含む、共立女子学園の
始まりは、1886年
に「女性の自立と自活」を目指し
て創立された共立女子職業学校
で、2026年には創立140周
年を迎えます。

重厚な外観の中高校舎棟は、東
京タワーの設計者である内藤多仲
博士が手がけた共立講堂と共に、
同校の歴史と伝統を物語る存在と
なっています。一方、校舎内部は
ICT機器など最新の教育設備を
整えるほか、生徒が生活をする場
としてゆとりを大切にしており、
食堂やラウンジ、オープンスペー
スなどが設けられています。ま
た、同一敷地内の共立女子大学と
一部施設を共用しており、都心に
ありながら体育館やグラウンドな
どの体育施設も充実しています。

同校は完全中高一貫制で、中学
1年生から高校1年生までの前半
4年間で基礎力を育て、後半2年
間で実践力を育てる4+2のシス
テムをとっています。そんな中、
大きな特色として挙げられるの
が、「東京一大会いの多い女子校」
をつたう生徒数の多さです。多様
な個性を持った多くの生徒が集ま
り学校生活を送ることで、自分と
異なる意見や考え方を理解し、協
働する経験を積み重ねることがで
きます。そうした中で、同校が2



1.東京電機大学の協力の下、実施した中高大連携講座「ダンボールチェアをつくろう」。2.多彩な部活動があり、参加率は中学校で約95%。太極拳部、能楽部など、めずらしい部も。3.生徒のリーダーシップが大いに発揮される文化祭（共立祭）。4.修学旅行では九州を巡り、見解を広めて友人とのより良い関係を築く。5.小笠原流礼法を基本とした動作や礼儀・マナーを学び、気品ある女性としての素養を身につける礼法の時間。6.代々木体育館で行われる体育祭。クラスごとに違う色のTシャツを来て、元気いっぱい体を動かす。7.美術の授業では、創造する楽しさも学ぶ。8.竣工は1938年で、さまざまな文化行事が行われてきた歴史ある共立講堂。9.福井県で行われたプレゼン甲子園での決勝大会の様子

school
information

共立女子 中学高等学校

「誠実・勤勉・友愛」の校訓のもと、
時代を超えて“輝き、羽ばたく女性”の
育成を目指す、
同校の教育を紹介します。

所在地／東京都千代田区一ツ橋2丁目2-1
TEL／03-3237-2744
アクセス／東京メトロ・都営地下鉄神保町駅から徒歩3分
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/chukou/>

022年から掲げているのが「共立リーダーシップ」です。誰もが集団の中で自分らしいリーダーシップを発揮できる、新しいリーダーシップ教育としてのプログラムを実施しています。その成果が実り、論理的思考力、表現力、創造力などを養い、プレゼンテーションスキルの向上を図ることを目的とする「プレゼン甲子園」では、高校2年生の生徒が決勝大会へ出場、2位に入賞しました。

ほかに、礼法の授業や、全国でもめずらしい能楽の部活など日本の伝統的な学びを大切にしながら、ICT教育やグローバル教育をはじめとする先駆的な教育にも力を入れています。

また、併設校である共立女子大学とさまざまな連携を行い生徒の興味の幅を広げるほか、東邦大学理学部とも高大連携協定を締結し、東京電機大学を始め、さまざまな大学の協力の下、サイエンス講座やイベントを数多く実施するなど、理数系進学志望者の学びを後押ししています。

これまでも政治や経済、芸術、文学など幅広い分野で著名な卒業生を数多く輩出してきた同校。新たなリーダーシップ教育の拡充と共に、より多くの生徒がそれぞれの輝ける場で活躍していく未来が拓けていくのではないだろうか。